

WS
11

水彩画を描く一下素描をして水性絵具で着彩する

※実技が中心。第1回前半のみ講義

【定員】25名 【受講料】2年・1年会員・聴講生ともに 30,250円（静物画モチーフ、人物画モデル代として4,000円を含みます。）

『美術』【ワークショップ】芸術 【時間】 毎回17時00分～19時30分（計10回）

概要 造形的なものの見方を理解し、水彩、ガッシュ、アクリルなど水性絵具による着彩を経て豊かな絵画体験をします。自らの感性と創造の楽しさを知ることでしょう。

回	月/日(曜)	会場	学習内容		講師名(敬称略)
1	4/10(水)	川崎市 生涯学習 プラザ	静物 A	講義およそ30分 その後制作に入ります。 (1) 鉛筆などによる下素描。水性絵具によるキアロスクーロ。(単色の明暗対比表現)	NHK文化センター講師 佐藤 道子
2	4/17(水)			(2) 固有色の注意深い観察。色調の調和と対比を試みます。	
3	4/24(水)		静物 B	(1) 鉛筆などによる下素描。水性絵具によるキアロスクーロ。(単色の明暗対比表現)	
4	5/15(水)			(2) 固有色の観察し、自分らしい調和を試みます。	
5	5/22(水)		人物 A	(1) 鉛筆などによる下素描で人体の比例、動き、量感をとらえます。 水性絵具の単色彩色によるキアロスクーロ。(画面全体の明暗対比表現)	
6	5/29(水)			(2) 人物の色彩と形態をよく観察し、感じたものを簡潔に表現します。	
7	6/12(水)		B 人物	裸婦クロッキー 水性絵具による速描。15枚くらいの水彩紙またはクロッキー帳をご用意ください。	
8	6/19(水)		人物 C	(1) 鉛筆などによる下素描で人体の比例、動き、量感をとらえます。 水性絵具の単色彩色によるキアロスクーロ(画面全体の明暗対比表現)	
9	6/26(水)			(2) 水性絵具の性質を生かし、のびのびした自分らしい表現を探ります。	
10	7/3(水)		講評会	これまで描いた作品についての受講生のスピーチと、講師の講評。	
連絡 事項	第1回から実技を行います。必要な持ち物は、受講決定通知内でご案内いたします。				